

Have a nice day ! 2021-3-11

1972年、私はスタンフォード大学の医学部に留学して、パロアルトという街に妻と子供2人と住んでいました。大学のあるその街はサンフランシスコ空港から南に約30kmのところにあります。

週末には、家族で1週間分の食料を買い出しに街のスーパーマーケットに出掛けます。品物をカートに積み込み、支払いにレジに行くと、店員が個々の品物の値段をレジスターに打ち込み、大きな紙袋に詰めてくれます。支払いが終わると、店員はニコニコしながら大きな声で「Have a nice day !」とか「Have a nice weekend!」と、明るく挨拶をしてくれます。実に気持ちがいいのです。私は、「なんてアメリカ人は陽気で楽天的な人種なんだろう」と思いました。街を歩いても、目が合えば、「Hi !」などと気楽に声を掛けてくれます。

以上は、私が昔に暮らしたアメリカの風景です。現在、経済格差や人種差別などで、アメリカの社会も変化しているかも知れませんが。

日本のスーパーマーケットのレジを通るとき、昔のアメリカの情景を思い出すのです。日本では、店員が黙々と品物の値段をレジスターに打ち込み、支払い金額を告げてお金を受け取るか、支払いは〇〇番の自動支払機ですとあって終わりです。気分が軽やかになるムードはありません。

話は脱線するのですが、医療機関の窓口です。私は年のせいで身体のあちこちに故障がありますので、いろいろな医療機関にお世話になっています。でも、それらの窓口で気の利いた挨拶や優しい言葉などを聞いたことはほとんどありません。

「ご気分はどうですか?」、「寒いですね」、「お大事に」などなど、それほど難しいものはないと思います。「また、お出で下さい」は、聞きたくありませんが。

もともと、窓口から優しく声を掛けられ、病気が良くなって医者に診てもらわずに患者が帰れば、病院は赤字になるかも知れません。

今の日本の医療機関を受診するとき、窓口の対応は私のアメリカ時代のスーパーマーケットのレジより遅れているのではないかと情けなくなります。少しカッカとなり、血圧が上がり気味になり、気分のすっきりしない窓口を後にする次第です。